

戦略的改革をさらに加速 「容器の2030年ビジョン」推進



▲日本コカ・コーラのホルヘ・ガルドゥニョ社長

新型コロナウイルス感染症がライフスタイルに大きな変化をもたらしてから1年以上が経過し、日本コカ・コーラは戦略的改革をさらに加速させることを決定した。

ホルヘ・ガルドゥニョ社長は「確かに感染症の拡大は変化の触媒として作用したが、私たちが変革の種まきを始めたのは、それよりもはるかに前のことだった。例えば日本のコカ・コーラシステムがグローバル目標よりもさらに高い独自の環境目標『容器の2030年ビジョン』を策定したのは2018年のこと」と述べる。

日本のコカ・コーラシステムでは、グローバルビジョン「World Without Waste」（廃棄物ゼロ社会）に基づき、18年7月に設計・回収・パートナーを柱とした「容器の2030年ビジョン」を設定。2019年7月には、従来の目標達成の前倒しを含む新たな環境目標を発表した。

世界の中でも意欲的な目標となっている設計の柱で、ボトル to ボトル（BtoB リサイクル）の割合を17%から22年までに50%、30年までに90%へと引き上げるなどして30年までに全てのPETをサステイナブル素材に100%（リサイクル樹脂使用率90%、植物由来樹脂使用率10%）切り替えることを目指す。

今年3月、国内の清涼飲料事業における2020年のBtoBリサイクル比率が前年比7ポイント増の28%になったと発表した。

これには「い・ろ・は・す 天然水 100%リサイクルペットボトル」の全面導入と「い・ろ・は・す 天然水 ラベルレス」の伸長、それからセブン & アイ HD との「一（はじめ）緑茶 一日一本」

完全循環型PETリサイクルの採用拡大（3SKUから4SKU）が大きく寄与した。

2月下旬からは、プラスチック循環型社会の実現に向けた啓発活動の一環として、すべてのリサイクル可能な製品パッケージと広告・POP類に共通の「リサイクルしてね」ロゴを順次導入し消費者へのコミュニケーションを強化している。

特に、リサイクルPET樹脂を100%使用した容器のラベルには「100%リサイクルペット」の表示をあわせて記載し、より環境負荷の低い製品であることをアピールしている。

5月31日からは、「コカ・コーラ」「コカ・コーラ ゼロシュガー」「コカ・コーラ ゼロカフェイン」などに100%リサイクルPETボトルを導入している。

この導入により、コカ・コーラシステム全体で年間約3万5000tのCO2排出量削減、約3万tの化石由来原料からつくられる新たなプラスチック削減を見込む。

持続可能な容器の取り組みに留まらず、多様性の尊重や地域社会との関係強化にも取り組む。新型コロナウイルス感染症への対応にあたる医療従事者には約130万本の製品を寄贈した。

「私たちは常に既存の事業にチャレンジし続けてきたが、ここ1年の社会や市場の変化はその道が間違っていなかったことを確信させてくれた。世界で135年、日本で65年にわたり事業を継続してきたコカ・コーラシステムは、過去にも困難に直面するたびステークホルダーの声に耳を傾け自らビジネスの変革を促進し一層強くなって立ち上がってきた歴史がある」と胸を張る。